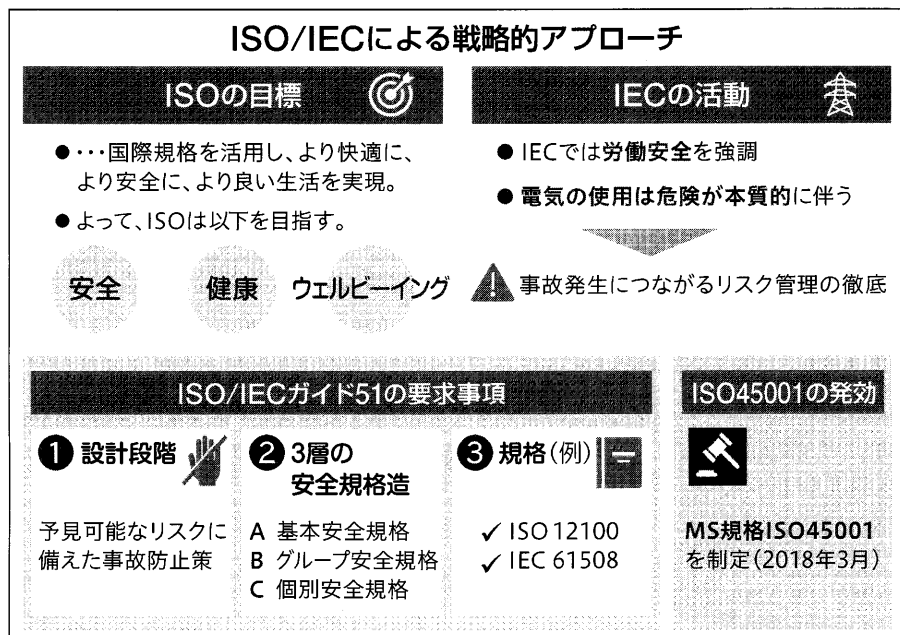




万博で標準化フォーラム

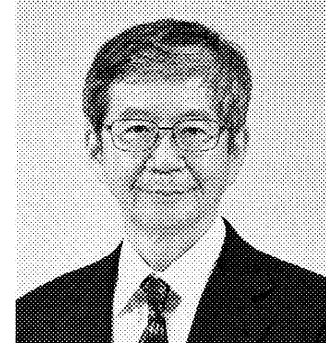


大阪・関西万博で7月16日に、GISHW(Global Initiative for Safety & Wellbeing at EXPO 2025 and Beyond)主催による「未来への贈り物―80億人の安全・健康・ウェルビーイング」をテーマとしたイベントが開催される。万博の歴史上初の、働く人の安全・健康・ウェルビーイング(SHW)をテーマとしたイベントである。

日本規格協会・JSAグループとしてSHWイベントの大きなテーマの一つである国際規格の重要性および7月に大阪関西万博内で開催する国際標準化フォーラムについて紹介する。

①ビジョンゼロサミットの開催と東京宣言

SHW実現に取り組む「ビジョンゼロサミット」は、労働安全に取り組む世界の専門機関が集まり、2018年にヘルシンキで22年には東京で開催された。ここでは「すべての人のためのビジョンゼロ東京宣言」が採択され、SHW



日本規格協会理事長
朝日 弘

東大工卒。82年(昭57)通商産業省(現経済産業省)入省。10年官房審議官(エネルギー・環境担当)、12年官房技術総括審議官。13年住友金属鉱山入社。21年から現職。

事故から学ぶ将来の安全

東京宣言では、参加者に対して、デジタル化やロボット化の進展を受け、安全と生産性を両立させながら職場の安全と健康を守るための自主的な取り組みや、国際標準化の推進を求めた。安全に関する国際標準化活動では、過去の事故から学び、再発防止に向けた国際規格の制定と普及を目指している。

また宣言では、SHWがSDG8(働きがいも経済成長も)、SDG3(すべての人に健康と福祉を)、SDG4(質の高い教育をみんなに)、SDG17(パートナーシップで目標を達成しよう)の目標に貢献するとした。

②国際標準化の活性化とSHW

(1)ISO/IECの標準化戦略

国際標準化機構(ISO)は安全で健康的な労働環境を確保することが全ての組織経営の基本課題であるとし、SHWに関する国際規格に取り組んでいる。電気・電子の標準化に取

世界80億人へ幸せ贈る

協調安全 規格化を推進

り組む国際電気標準会議(IEC)は、ロボット、AI(人工知能)などの技術革新により、生産性が向上する一方で新たな安全上の課題が発生しており、工場物流、モビリティ、医療などの分野で国際安全規格を確立する必要性があると考え、労働安全を重視し、産業事故につながるリスクを徹底的に管理する方針でSHWに取り組んでいる。

ISOとIECは協力して国際安全規格の体系的な整備を進めている。安全確保のベストプラクティスを示し、組織的に事故を防ぎ、規制を順守することで、安全と生産性のバランスを実現する安全文化の醸成に貢献している。

(2)ISO/IECの安全規格体系

ISO/IECの安全規格体系は、ISO/IECガイド51を基に整備され、SHWの観点から3点の重要な特徴が挙げられる。

①製品の設計段階で、予見可能なリスクに備えて事故を未然に防ぐための措置を講じ、機械・装置の残留リスクを認識し、危害を回避することを目指す。

②ISOとIEC共同の取り組みにより、A・基本安全規格、B・グループ安全規格、C・個別安全規格の3層構造による安全規格の体系的な整備を進展させる。個別製品に対応した安全規格がない場合でも、グループ規格や基本安全規格に立ち戻って対策を検討できる柔軟な体系である。

③3層の安全規格が示されている。例えば、基本安全規格では「ISO12100

AI活用自動化リード、エヌビディア登壇

「国際標準化フォーラム」事務局関係者



00 機械の安全性・設計の基本概念―リスク評価とリスク低減」で、グループ安全規格では「IEC61508 電気、電子、プログラム可能な電子安全関連システムの機能安全」で、安全性の基本的な考え方を示している。

その他、「ISO45001 労働安全衛生マネジメントシステム」が、SHWにも資する規格として制定されている。

③新しい時代の安全の考え方・協調安全(Safety 2.0)

職場における安全の概念は3段階ある。Safety 1.0は作業員自身の努力によって安全を確保し、Safety 2.0は協同安全と称し、ITを駆使した人間と機械のコラボレーションによって安全を実現することができる。

わが国は、IEC ACOS(安全諮問委員会)にて協調安全のコンセプトを提言してきた。人間中心のアプローチと情報通信技術(ICT)をフル活用した協調安全(Safety 2.0)推進のため、新しいガイドライン(指針)の確立を提唱してきた。

④ウェルビーイング向上のための取り組み(マイナスをゼロに、ゼロをプラスに！)

従来の職場安全の考え方はリスク(マイナス)を極力ゼロに近づけるといふものだった。他方、Safety 2.0では、機械との協調によって、より働きや

すい環境になり、労働者の健康、ウェルビーイングが向上するというプラスの効果が期待される。職場安全に限らず、例えば高齢者のウェルビーイング向上にも関係する。

ISO/TC314「高齢社会」では、高齢社会において人々のウェルビーイングを向上させるためのガイドラインを策定し、これまで見過ごされがちであった、人々の幸福を重視する社会への転換を目指している。ガイドラインは理想論であってはならない。世界各国で既に実行されている政策の具体例を集めて分析し、各国や組織が取り組むべき望ましい施策を示している。

ISO/TC283「労働安全衛生」、IEC/SC 58 AAL「自立生活支援」でも議論され、SHWは、従来の枠組みを超えて取り組むべき重要な課題となっている。

⑤国際標準化フォーラムの開催

大阪・関西万博は、「いのち輝く未来社会のデザイン」がテーマである。JSAグループもGISHWとともに、SHWに関する「国際標準化フォーラム」を開催する。すべての人々の豊かな生活に直結するSHWの実現を国際規格で支援し、80億人の生活の基盤を整え、幸せの実現に貢献する。

GISHW Days 4日間イベントの初日の7月16日に開催し、ISO・IEC代表やAIを活用した自動運転システムなどをリードするエヌビディアをはじめ、国内外の関係者をお招きし、世界に対してSHWの達成に向けた熱いメッセージを発信する。

職場内外のSHW実現は、あらゆる経営にとって最優先事項でなければならぬ。経営トップのリーダーシップのもと、マネジメントシステムを効果的に機能させ、安全基準を最大限に活用し、幸福を実現するために協調安全コンセプトを定着させる必要がある。そして「人々が毎日健康で元気な状態で帰宅できる職場環境」の構築を支援したいと考えている。

ぜひご参加いただきたい。大阪・関西万博でお会いしよう。